

令和 8 年度 第 1 回 富士市環境審議会 議事録

1 開催日時 令和 8 年 9 月 4 日（金） 14：00～15：40

2 開催場所 富士市役所 庁舎 8 階 第 2 会議室

3 出席者 富士市環境審議会委員 11 名
欠席 3 名（小南委員 鈴木委員 柏倉委員）

【事務局】

山本環境部長 寺田環境総務課長 本多環境保全課長 佐野廃棄物対策課長
石川新環境クリーンセンター所長

（環境総務課）和泉調整主幹 加藤主幹 横山主幹 熊崎主事補

4 会長・副会長の選任 会長に静岡大学学術院グローバル共創科学領域教授の水谷洋一氏、
副会長に東海大学海洋学部教授の秋山信彦氏が委員の互選により選任された。

5 審議事項

（１）富士市地球温暖化対策実行計画推進部会運営要領の改定について

事務局 資料 1 について説明

<質疑> なし

委員により、改定案について原案のとおり了承された。

（２）令和 8 年 富士市環境報告書（案）及び取組指標の中間見直しについて

事務局 資料 2 について説明

<質疑>

委員 環境目標を変更できないことは理解しているが、資料 2-1、7 ページの環境目標
「生物多様性の言葉の認知度」と、個別分野別の取組指標の内容との結びつき
が弱いのではないかと。さまざまな取り組みが実施されているものの、それらの
活動が拡大したとしても、環境目標の達成に直接つながらない可能性がある。
目標達成のためには、今後、一般市民にも「生物多様性」という言葉を十分に
認知してもらえよう、資料やチラシ等も活用しながら、分かりやすく示す必要
がある。

事務局 指摘のとおり、環境目標と取組指標の内容が対応しているものではない。今後は、
「生物多様性」という言葉を広く知ってもらえよう、啓発や情報提供の方法を
工夫していきたい。

委員 資料 2-1、10 ページの環境目標「温室効果ガス排出削減率」について、統計公表
の時期の関係から、最新実績が令和 4 年度時点の数値となっている。一方、12
ページ以降の取組指標の計画値及び実績値は、令和 7 年度時点の数値となってい

るため、両者の基準時点が異なり、目標の達成状況を適切に評価できない。取組指標についても、環境目標の実績値に合わせて令和 4 年度時点の数値を記載するなど、評価時点を統一する必要があるのではないかと。

- 会 長 2030 年度の目標達成に向けた進捗を適切に評価できるよう、年度ごとの目安や進捗状況を示してはどうか。
- 事務局 今後の進行管理において、2030 年度目標までの目標の按分値をグラフに示すなど、目標達成までの経路や進捗状況を示せるよう、方法を検討していきたい。
- 委 員 資料 2-1、10 ページの「温室効果ガス排出削減率」は令和 2 年度までは順調に推移していたが、令和 2 年度の 18.4%から令和 4 年度には 14.0%へ低下している。この要因は何か。
- 会 長 富士市内の排出源を取り巻く環境に変化が生じているのか。
- 委 員 令和 3 年度の排出量の悪化については、新型コロナウイルス感染症の流行後に経済活動が回復したことが主な要因である。これは国や県においても同様の傾向が見られている。
- 一方、令和 4 年の悪化は国や県ではみられないものであり、富士市内の特定排出事業者における製造業の排出量増加が主な要因である。個別企業の事情までは把握できていないが、非エネルギー起源 CO₂（廃棄物の原燃料使用）及び一酸化二窒素の排出量の増加が確認されている。
- 会 長 全国的にも、新型コロナウイルス感染症の影響で排出量が一時的に減少している。コロナ禍の時の特例であり、当時と同じようには減少しないものと考えられる。
- 会 長 このままでは、過去の排出状況に戻ってしまうのではないかと。
- 事務局 電化やエネルギー転換などの取り組みは進められている。今後は、生産量を維持・向上させながら環境負荷を低減していくことが重要であり、そのためには事業者の協力が不可欠である。
- 副 会 長 資料 2-1、12 ページで補助金を活用しながら太陽光発電の導入を進めているが、富士山麓地域における大規模太陽光発電設備の導入と森林保全との兼ね合いはどうか。
- 事務局 基本目標 5 と関連してくるが、本市では「富士市富士・愛鷹山麓地域の森林機能保全に関する条例」を令和 3 年に制定しており、森林法上の 5 条森林を伐採する開発を原則抑制している。やむを得ず開発を行う場合には、森林喪失影響評価または失われる森林機能を新たな植林で保全する措置を求めている。こうした制度の効果もあり、大規模な太陽光発電施設の新設は抑制されている。

- 会 長 富士市ではこどもエコクラブの活動が活発である一方で、現在の取組指標が実態を十分に評価できていない可能性が考えられる。こどもエコクラブの代表サポーターとして活躍されている小澤委員はどのように考えているか。
- 委 員 富士市のこどもエコクラブは長年にわたり活動を継続しているクラブも多く、壁新聞の制作では、県内から 1 団体のみに参加できる「全国エコ活コンクール」に選出され、表彰された実績もある。さらに、幼い頃から会員として活動されていた子供が高校生となり、現在の活動をサポートしてくれていることもある。過去には、学校の先生が代表サポーターを務めていることもあったが、現在の多くは地域の方が活動を支えており、これも素晴らしいことである。そのような活動の実績を数値で表すことは難しいが、市全体として一生懸命活動に取り組んでいる。
- 委 員 活動が縮小している自治体も多い中、富士市は積極的に活動している。現在の指標である加入率だけでは、活動の継続年数や内容、子供たちへの広がり、地域の大人による支援などが分かりにくい。そのため、継続している団体数や活動実績など、活動の質や継続性、関係者の努力が評価できる仕組みが今後必要と考える。
- 委 員 こどもエコクラブの存在を知らない人も多い。活動を知る機会が増えれば、興味を持って加入したいと考える子どもも多いと思う。
- 委 員 全体として評価が「◎」の項目が 10 個あり、取り組みはおおむね順調に進んでいると感じる。達成が難しい項目もあるが、今後も社会情勢の変化に合わせて、必要に応じて目標や取り組み内容を見直していけばよいのではないかな。
- 副 会 長 12 ページのごみ焼却施設の発電効率について、数値の算定方法を確認したい。
- 事 務 局 環境省の算定方法に基づき、発電量やごみ投入量等を用いて発電効率を算定している。令和 7 年度の実績は 22%であり、安定した設備運用を目指す観点から、目標値を 22%に見直す案としている。
- 副 会 長 ごみの量が増減した場合でも、発電効率への影響は問題ないのか。
- 事 務 局 ごみの量の変動しても、効率的に焼却することで、一定の発電量及び熱量を確保することを目指している。ただし、設備の経年劣化等により出力が低下する可能性もあるため、適切なメンテナンスを実施しながら、安定した設備運用に努めていく。

審議の結果、令和 8 年 富士市環境報告書及び取組指標の中間見直しについて、了承された。

6 報告事項

(1) 富士・愛鷹山麓地域における植林実証試験の報告について

- 事 務 局 資料 3 について説明

<質疑>

- 委 員 植林の取り組みは大変意義がある。しかし、植栽した苗木がシカに食べられる被害が多く発生しているため、今回の実証試験の結果を活用し、事業者に対して獣害対策の周知を進めてほしい。
- 会 長 技術指針に記載されている植林後の「獣害対策」について、今回実施した防護柵以外には、どのような方法があるのか。
- 事 務 局 広い面積で対策を行う場合は、今回のような防護柵がコスト面で有効である。小規模な面積であれば、苗木ごとに設置する防護資材や忌避剤を使用する方法もある。
- 副 会 長 今回植栽した苗木は、実生苗か。また、苗木の大きさと試験地の標高はどの程度か。さらに、昆虫などの変化について確認しているか。
- 事 務 局 実生苗ではなく、挿し木で育成した苗木である。苗木の大きさは約 1 メートルで、試験地の標高は約 800 メートルである。今回の実証試験では、昆虫などを含む生物相についての調査は実施していない。
- 副 会 長 試験地の標高を考慮すると、広葉樹の植栽が適していると考えられる。今後は、昆虫や植物などを含む生物多様性の回復状況についても確認することで、森林の多面的機能をより適切に評価できる。
- 事 務 局 今回の実証試験では、比較検証のため、針葉樹と広葉樹を植栽している。今後の取り組みについては、生物多様性や水源涵養などの観点も踏まえ、検討していきたい。
- 委 員 この実証試験は、いつまで実施する予定か。
- 事 務 局 契約上、令和 8 年度末までである。その後は、試験地を現状のまま貸し主へ返還する予定である。